

現場訪問

●宇都宮市役所

全庁を挙げた交通安全の取り組みで交通事故を削減

宇都宮市役所では全庁を挙げて安全運転対策に取り組んでいる。宇都宮市役所管財課車両グループ総括主査の齋藤章記さんによると「宇都宮市役所では、平成14、15年当時、年十数件ほど公用車による加害事故が発生してしま...



様々な路面状況での運転操作を体験

さらに、職員の研修にも力を入れている。1つ目が、全新人職員を対象とした新規運転従事者講習会。齋藤さんら、車両グループの職員が茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センターで指導者講習を受け、新人職員に市施設内で講義と公用車を使った実技研修を徹底している。

「実際起こりうる危険をプロの指導員が見守る中、安全に体験することで、クルマの特性や自分の操作の限界を知ることにより、危険認識を高め、日頃からスピードを控える、車間距離をあげるなど、安全運転に活かしてほしい」と参加者の安全意識向上を期待する。



操作がしやすく疲れにくい運転姿勢を確認した



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでの安全運転実技講習会

指導している。2つ目が、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎや教習所を利用した外部研修。教習所では、全ての事故当事者を対象とした、事故者研修を半年に1回程実施している。アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、安全運転実技講習会を実施。昨年からは希望する一般行政職の職員を対象とし、今年、4回に分けて48名が受講する。また、動画による危険予測トレーニングも今後予定されている。

TOPICS



安全運転普及活動キックオフ式典



キックオフ式典の様相。研修受講者には、Hondaパートナーシップ・インストラクターの認定証が授与された

「今後は、こうした体験の機会を広げていき、全庁を挙げて事故を撲滅するという目標を達成していきたい」と齋藤さんは語っていた。

2

●ホンダ関連企業災害防止協議会・安全運転インストラクター養成研修会  
社内や地域で交通安全活動を推進する  
ホンダパートナーシップ・インストラクターを養成

ホンダは、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本の各製作所に安全運転普及活動に専任で取り組む「地区普及ブロック」を設置し、地域に根ざした交通安全活動に取り組んでいる。さらに、こうした活動に賛同する関連企業の従業員の中に、ホンダパートナーシップ・インストラクターを養成し、一体となって交通安全活動に取り組む体制づくりを進めている。

すでに熊本ではホンダ協会の38社からなる組織「熊輪会」にインストラクターを養成し、「親子交通安全教室」などを連携して実施している。

今回新たに、栃木・埼玉でもホンダ協会の組織として「ホンダ関連企業災害防止協議会」(以下、「防災協」)に、社内や地域で交通安全活動を展開するため、安全運転インストラクター養成研修会が開催された。研修は6日間、2回に分けて交通安全センター(レインボレーンボ、アクティブセーフティトレーニングパーク)もてぎで行われた。今回研修に参加したのは、「防災協」に属する栃木、群馬、茨城、宮城、北関東、アエの企業10社から16名。四

輪や二輪の点検、運転姿勢、制動など講義と実技練習の他、「親子バイク教室」、交通安全教育プログラム「あやとりい」など社内や地域に向けた交通安全活動の指導法を学んだ。



指導者役、受講者役に分かれ、二輪車の点検などの指導を身につける

1

●交通安全教育プログラム「新あやとりいひよこ編」  
地域の交通安全指導者などに活用していただくための教材

ホンダでは未就学児童(4〜5歳)を主な対象とした「新あやとりいひよこ編」を保育園・幼稚園の先生方や地域の交通安全指導者を通じて展開している。この「新あやとりいひよこ編」を活用した交通安全教室が7月9日、埼玉県秩父市内の幼稚園で開催さ



「新あやとりいひよこ編」を活用した交通安全教室のもよう ※あやとりい=本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックが鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。あやとりいは「あんぜんを やさしく とぎあかし りかいて いただく」の略。

れた。指導を担当するのは秩父市交通安全教育担当指導員5名。路側帯のない道路が描かれた大型ワークシートを指導員が子どもたちに見せ、「みんなは道路のどこを歩けばいいか知ってるかな?」と問いかける。「端っこ!」と子どもたちが大きな声で答える。「端っこといっても右側と左側があるよね。どちらを歩けばいいか、教えてくれるかな?」と指導員が台本にそって話をリード。子どもの一人に女の子のキャラクターを渡し、それを正しいと思う場所に貼りつけてもらう。「正解です。このように右側の端を歩きましょう」と指導員が説明。次は、車道と歩道が分かれている道路が描かれた大型ワークシートを見せ、同じようにどこを歩けばいいか、また別の子ども一人にキャラクターを手渡し、それを正しいと思う場所に貼りつけてもらう。「正解です。このように歩



子どもにキャラクターを貼りつけてもらう

道と車道が分かれている時は、必ず歩道を歩いてください。ただし、お店の駐車場などへの出入りで歩道をクルマが横切ることがありますから、歩道を歩く時も周りをよく見るようにしましょう」と指導員が交通安全のポイントを説明した。

今年4月から秩父市による幼稚園・保育園での交通安全教室では「新あやとりいひよこ編」が採り入れられている。指導員の原島久さんは「この教材は子どものキャラクターを貼るなど、子どもたちが参加できる点が効果的だと思います。ワークシートも大型で見やすく、さまざまな場面が用意されているので使いやすい」と使用した感想を話した。

保育園・幼稚園の先生方や地域の交通安全指導員等、自らで交通安全教育を実践していただける方には、指導者養成と併せて教材の貸し出しを行います。お問い合わせ: 本田技研工業(株)安全運転普及本部 担当/山田 TEL03(5412)1736

NEWS REVIEW

●第43回二輪車安全運転全国大会

二輪運転者の安全運転技能を競う



全国から集まった選手達が安全運転の技術を競った

7月31日、8月1日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センターにて「第43回二輪車安全運転全国大会」が開催された(主催: (財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会)。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止することを目的として、昭和43年から毎年開催されている。競技は、法規履行走行と技能走行。女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般

Aクラス(400cc)、一般Bクラス(750cc)の4クラスに分かれて、全国47都道府県の代表選手が各クラスの個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。

大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、大会副会長の福井威夫・(社)全国二輪車安全普及協会会長と河合潔・三重県警察本部長が挨拶。出場選手全員によるパレードが行われた。大会成績は、団体優勝



記念式典で挨拶する福井威夫・(社)全国二輪車安全普及協会会長

が東京都、2位・神奈川県、3位・大阪府。個人賞は、女性クラス・永田真由美さん(東京都)、高校生等クラス・川口晋史さん(大阪府)、一般Aクラス・安川祐樹さん(富山県)、一般Bクラス・木村耕さん(長野県)が優勝した。女性クラス優勝の永田さんは、「関係者を含むチーム一丸となって取り組んできたので、団体、個人とも優勝できてうれしいですと喜びを語った。



各クラスの優勝者